

＜東京国立近代美術館工芸館＞ 所蔵作品展

『 近代工芸案内一名品選による日本の美 』

2014年12月5日(金) ～2015年 2月15日(日)



1 北原千鹿 《羊置物》 1928年



2 野口光彦 《陽炎》 1969年



3 赤塚自得
《蒔絵硯箱 常緑》制作年不詳



4 北大路魯山人 《金彩雲錦鉢》 1951年



5 佐々木苑子
《絵紵着物 翠嵐》 2006年
(前期展示)



6 生野祥雲斎
《竹華器 怒濤》 1956年 (後期展示)

- ・ 明治から現代までの工芸作品を、6部構成で展観。
- ・ 陶磁やガラス、漆工、染織、木竹、金工、人形等さまざまな素材の魅力を紹介。
- ・ 工芸館が所蔵する3,400点のなかから、約130点の名品を精選。

日本の近代工芸発展の歴史を回顧します。

【報道関係の方からの本資料に関するお問合せ先】

東京国立近代美術館工芸館 展覧会担当/諸山・内藤

広報担当/高橋 TEL: 03-3211-7781 (代表)

E-mail: cg-pr@momat.go.jp

【掲載用お問合せ先】 ハローダイヤル TEL: 03 - 5777 - 8600

【工芸館についてもっと知りたい方は、公式サイトまで】 <http://www.momat.go.jp/>

「近代工芸案内—名品選による日本の美」展 概要

明治時代から平成の今日へ、日本では、伝統のわざや美を華やかに発展させ造形の可能性を開拓して、新しい時代の工芸が連綿と生みだされました。陶磁やガラス、漆工、染織、金工、人形等、さまざまな素材の魅力を訴え、時代に適合した自由な創作表現を主張して多くの作家達が活躍してきました。その多彩な芸術は、国内にとどまらず国際的な評価を高めています。

東京国立近代美術館では1977年に工芸館を開館して以来、伝統工芸や現代工芸の発展の動向を軸にしなが、芸術としての近代工芸の系譜を歴史的に検証し得るコレクションの充実を図り、あわせて特に重要な分野や作家の作品収集に努めてきました。

本展では、そうした多くの収蔵作品のなかから名品約130点を精選し、明治から現代作家の作品までを「①世界に躍動した明治時代の工芸」、「②近代工芸が確立した大正から昭和前期頃」、「③民藝の個人作家」、「④戦後の工芸」、「⑤伝統工芸」、「⑥1980-90年代頃から現代の工芸」の6部構成で、日本の近代工芸発展の歴史を回顧しながら工芸の美とちから、そして豊かな魅力をご紹介します。



7 二十代堆朱楊成
《彫漆六華式平卓》 1915年



8 石黒宗磨 《失透釉茶碗》 1936年頃



9 八木一夫
《漂流》 1961年



10 藤田喬平
《飾箱 光悦》 1973年



11 三代徳田八十吉
《耀彩鉢 創生》 1991年



12 小川待子 《無題》 2008年

「近代工芸案内—名品選による日本の美」展 概要

展覧会タイトル (日本語) 近代工芸案内—名品選による日本の美
(英語) Modern Craft Art Japan:
Beauty of Masterpieces from the Museum Collection

会期 2014年12月5日(金)～2015年2月15日(日)
※会期中、一部作品の展示替えをおこないます。
前期：12/5(金)～2015/1/4(日) 後期：2015/1/6(火)～2/15(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(1月12日は開館)、年末年始[12月28日(日)～1月1日(木・祝)]、
1月13日(火)

主催 東京国立近代美術館

会場 東京国立近代美術館工芸館(東京都千代田区北の丸公園1-1)

アクセス 東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口 徒歩 8 分
東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」2 番出口 徒歩 12 分

観覧料 一般210円(100円) 大学生70円(40円)
・()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。
・高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポートをお持ちの方、
キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。
・それぞれ入館の際、学生証、運転免許証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等を
受付にてご提示ください。

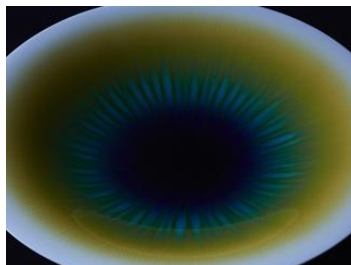
無料観覧日 12月7日(日)、1月2日(金)、1月4日(日)、2月1日(日)

関連イベント ■対談「作品を撮る」 2014年12月14日(日)

福田 巖(フォトグラファー) × 諸山正則(当館主任研究員)

*いずれも14時から
工芸館会場にて

申込不要
参加無料(要観覧券)



撮影: 福田 巖

本展では、三代徳田八十吉の鉢や野口光彦の人形など、5点の大型版写真を作品とともに展示します。撮影者の福田 巖(ふくだ がん)氏は、100年以上前のレンズとデジタルカメラを融合させた独自のカメラを用いて、今回の展示のために作品撮影をおこないました。その写真は、工芸素材の豊かな肌合いや技術の詳細に迫り、作家の息吹や作品の清新な魅力をとらえています。対談では、工芸作品を撮影する思いと作品の魅力などを語ります

.....
■ギャラリートーク 2015年1月18日(日)、2月8日(日)
当館研究員が鑑賞のポイントをわかりやすく解説します。

.....
■タッチ&トーク 毎週水・土曜日(2015年1月3日はお休みします)
工芸館ガイドスタッフが「さわってみようコーナー」と会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会のみどころをご紹介します

公式サイト <http://www.momat.go.jp/>

掲載用お問合せ先 03 - 5777 - 8600 (ハローダイヤル)

広報用図版 請求票

ご希望の図版の に を入れて FAX でお送りください。

FAX : 03-3211-7783 工芸課/広報担当 行 発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	ご掲載時のクレジット表記（所蔵はすべて東京国立近代美術館蔵）
	1	北原千鹿 《羊置物》 1928年
	2	野口光彦 《陽炎》 1969年
	3	赤塚自得 《蒔絵硯箱 常緑》 制作年不詳
	4	北大路魯山人 《金彩雲錦鉢》 1951年
	5	佐々木苑子 《絵絣紬着物 翠嵐》 2006年（前期展示）
	6	生野祥雲斎 《竹華器 怒濤》 1956年（後期展示）
	7	二十代堆朱楊成 《彫漆六華式平卓》 1915年
	8	石黒宗麿 《失透釉茶碗》 1936年頃
	9	八木一夫 《漂流》 1961年
	10	藤田喬平 《飾箱 光悦》 1973年
	11	三代徳田八十吉 《耀彩鉢 創生》 1991年
	12	小川待子 《無題》 2008年

- ・画像データ（JPEG）をメールでご送信いたします。画像は展覧会広報にのみご使用ください。著作権保護のため他の目的でのご使用は固くお断りいたします。展覧会終了後の使用、および2次使用はできません。
- ・展覧会名、会期、会場名、クレジット、所蔵館名を必ず掲載してください。
- ・掲載見本を1部工芸課広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は掲載時にお知らせください。

■ 貴媒体についてお知らせください

貴社名			
媒体名 (掲載コーナー、特集名、URLなど)			
掲載予定号・発行日/放送・公開	月	日	発売・公開 (号) / 発行部数 部
ご担当者名			E-mail:
連絡先	Tel:	Fax:	
読者プレゼント招待券希望	読者プレゼントとして5組10名様を 希望する / 希望しない		
チケット送付先	〒		